



学校だより

令和8年2月27日
藤沢市立鶴洋小学校
学校評価特別号



学校教育目標：えがお あいさつ まなびあい

令和7年度学校評価 ～「えがお あいさつ まなびあい」の実現を目指して～

陽光きらめく爽やかな季節となりました。早いもので、今年度も残すところ、あと僅かとなり、1年間を振り返る時期になりました。

さて、本日は、昨年を実施いたしました学校評価の結果と、それに対する考察についてお伝えさせていただきます。

ご協力いただきました保護者の皆様に、改めて感謝申し上げます。

次年度は、今回の学校評価で高い評価をいただいた項目については、より一層の充実を目指し、評価の低かった項目については、今回の結果を真摯に受け止め、課題解決に向け、保護者の皆様や地域の方々のご助言やご支援を賜りながら、改善に努めてまいります。

今後とも本校の教育活動に、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

なお、今回の学校評価は、「学校づくりアンケート」として、4年生の児童と保護者の皆様、学校運営協議会委員の皆様にご協力いただき、ご意見をいただきました。

教職員一同、皆様からいただいた貴重なご意見をもとに、より良い学校づくりを目指して参ります。

今回の学校評価は、2022年度から2025年度までの4年間の推移を一覧にまとめました。この期間は、2023年5月の新型コロナウイルス感染症の5類移行という大きな転換点を含んでおり、社会状況の変化が子どもたちの生活にどのような影響を与えたかを振り返る貴重な資料となっています。

経年比較を行う際は、対象となる児童や保護者の皆様、そして指導にあたる教職員が毎年異なるため、単純な数値の増減だけで教育活動の変化を正確に捉えることは、難しい側面があります。

しかしながら、本校では全職員が年度当初より、本調査の項目を「目指すべき姿」として共有し、日々の指導にあたってまいりました。現在の中学校1年生から小学5年生までの子どもたちが、過去の自分たちの姿(4年生当時の自己評価)や、当時の保護者の皆様から見た様子と比較して現在の状況を考察することは、学校全体の歩みを把握し、より良い教育環境を築く上で極めて意義深いものと考えております。

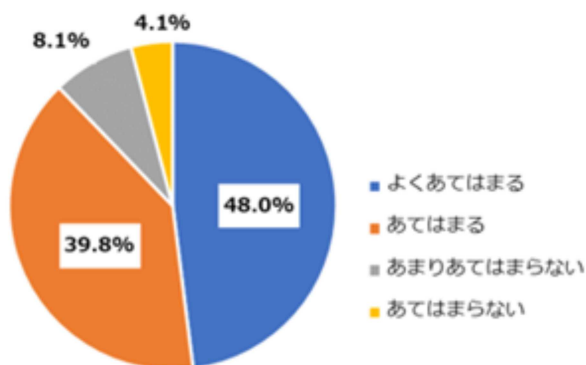
数値の背後にある、子どもたちの生活環境の変化や成長の軌跡を汲み取っていただき、多角的な視点から本校の教育活動をご判断いただければ幸いです。

※ 今年度よりデジタル配信へと移行したことに伴い、紙面の制約にとらわれることなく、学校運営協議会での協議に基づいた詳細な考察をそのまま掲載いたしました。

学校の現状をありのままにお伝えするため、例年より長文となっておりますが、本校の教育活動へのご理解を深めていただく一助として、ぜひ最後までご一読いただけますと幸いです。

◆児童の回答より

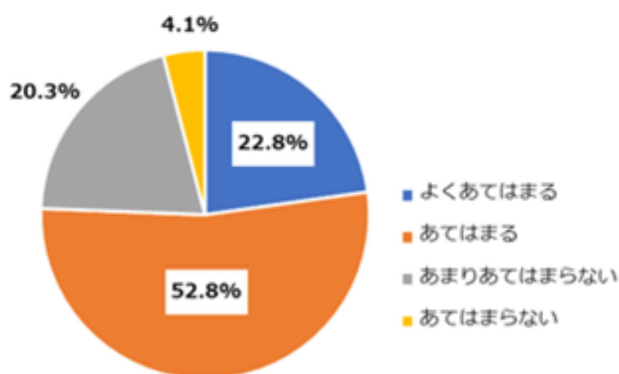
1. 学校は、楽しいです



年度	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
2025	48%	39.8%	8.1%	4.1%
2024	48%	38%	11%	3%
2023	51%	35%	15%	5%
2022	50%	40%	7%	3%

肯定的な回答は毎年85%~90%前後で安定しており、児童の多くが学校生活に満足感を持っています。2023年度に「あまりあてはまらない」が15%と一時的に上昇しているのは、コロナ禍の解除により、一時的な環境変化が影響した可能性があります。

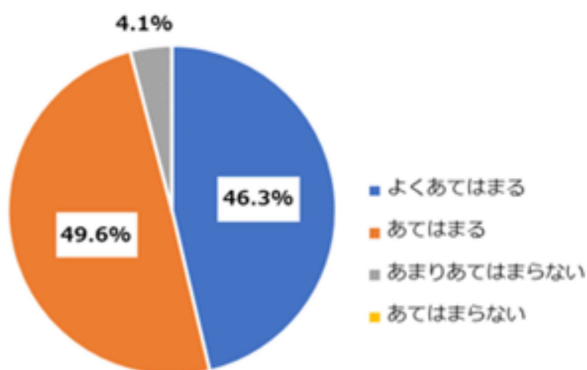
2. 友だちや先生、近所の人にあいさつをしています



年度	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
2025	22.8%	52.8%	20.3%	4.1%
2024	38%	51%	9%	2%
2023	36%	43%	18%	4%
2022	58%	37%	5%	0%

大きな変動が見られます。「よくあてはまる」が2022年度の58%から、2025年度には22.8%まで大幅に低下しています。この急激な変化の背景には、学校側における指導の徹底が十分でなかった点は真摯に受け止めるべき課題です。あわせて、コロナ禍を経た地域社会との接点の希薄化や、デジタルツールの普及に伴う対面コミュニケーションへの意識の変容など、子どもたちを取り巻く社会環境の変化も、挨拶の習慣化を妨げる一因になっていると考えられます。

3. 交通マナーを守って、登下校しています



年度	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
2025	46.3%	49.6%	4.1%	0%
2024	54%	41%	4%	1%
2023	54%	40%	5%	1%
2022	66%	31%	3%	0%

交通マナーに関する児童の自己評価は、肯定的回答の合計が95.9%と極めて高い数値を示しました。児童の多くが「交通ルールやマナーを守っている」という高い自覚を持って登下校していることが伺えます。

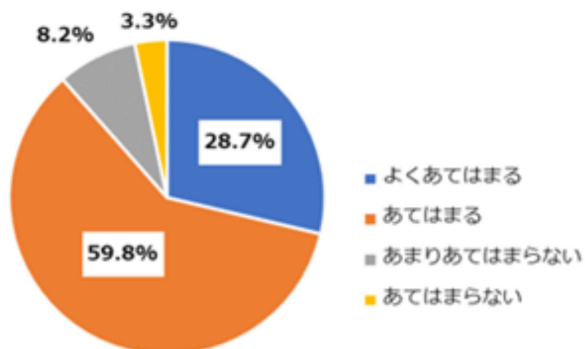
しかしながら、4年間の推移を詳しく見ると、「よくあてはまる」の割合は、2022年度の66%から2025年度には46.3%へと、約20ポイント減少しています。これは、全校児童の約9割が肯定的に回答している一方で、子どもたち自身の意識の中に「本当に守れているだろうか」という迷いや、実

態への気付きが生まれ始めている表れとも受け取れます。

実際、地域から寄せられるご意見や教職員の見守りを通じた実態と照らし合わせると、この高い自己評価が必ずしも実際の行動に結びついていない場面も見受けられます。

「自分で思っている姿」と「周囲から見えている姿」のギャップを自覚し、それを埋めていくことが、今後の学校と家庭が連携して取り組むべき重要な課題であると考えております。

4. 学校やクラスの決まりを守っています

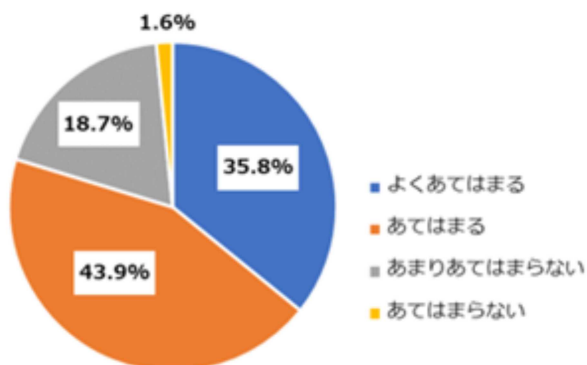


年度	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
2025	28.7%	59.8%	8.2%	3.3%
2024	42%	50%	5%	3%
2023	36%	52%	10%	2%
2022	56%	40%	4%	0%

「よくあてはまる」の割合が、2022年度の56%から28.7%へと大幅に減少しました。これは、本校が大切にしている自由な校風の中で、子どもたちの規範意識が、単に「形を守ること」から主体的に判断して行動することへ移行しているのではないかと考えます。過渡期であるとも捉えられます。

学校としても、単に決まりを守らせるだけでなく、なぜその決まりが必要なのかを自分たちで考え、納得して行動できる「内面的な規律」の育成に、取り組んでいきたいと考えております。

5. 授業中は、友達と一緒に考えたり、教えあったりしています



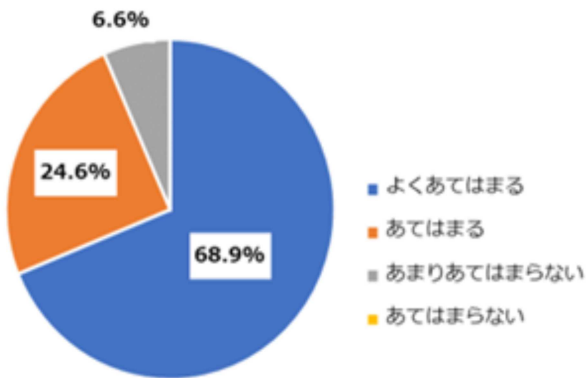
年度	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
2025	35.8%	43.9%	18.7%	1.6%
2024	48%	34%	17%	1%
2023	48%	37%	12%	3%
2022	63%	32%	3%	2%

右肩下りの傾向です。「よくあてはまる」が63%（2022年）から35.8%（2025年）まで低下し、反対に「あまりあてはまらない」が3%から18.7%に増加しています。

しかしながら、現在、学校の授業形態が「対話的」なものから端末利用等へとシフトし、直接的な「教え合い」の機会が数値上、減少している可能性があると考えます。一方、「あてはまる」という回答が32%から43.9%へと増加していることから、学びの形が「全員一斉の対話」から、必要な時に必要な相手とつながることは、継続して行われているとも解釈できます。

今後は、端末等の利用による個の深まりと、それを他者と伝え合わせる「協同的な学び」をいかに両立させていくかが、授業改善の柱になると考えております。

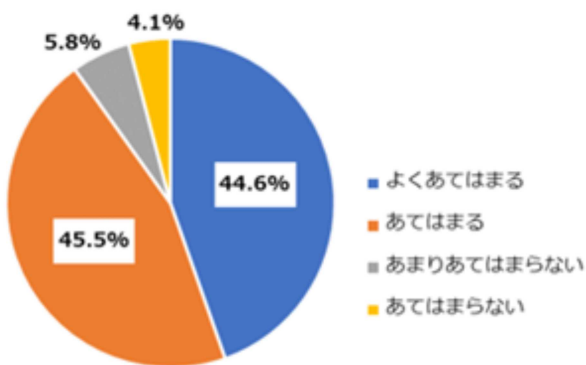
6. 給食の時間を、楽しくすごしています



年度	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
2025	68.9%	24.6%	6.6%	0%
2024	68%	25%	7%	0%
2023	68%	23%	7%	2%
2022	62%	27%	9%	2%

全項目の中で最も安定して高い満足度を維持しています。肯定率は90%を超え続けています。

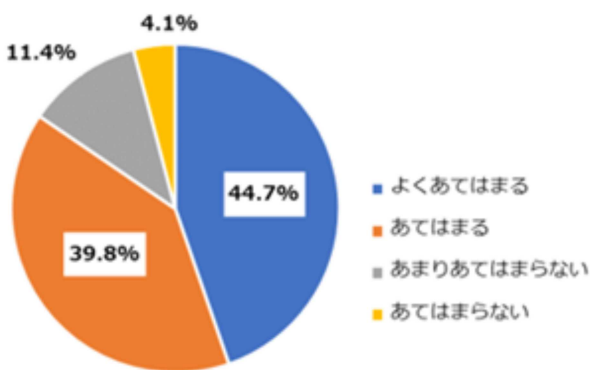
7. いろいろな行事や係・当番の活動では、まわりの人と協力して行動しています



年度	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
2025	44.6%	45.5%	5.8%	4.1%
2024	46%	45%	8%	1%
2023	42%	46%	12%	1%
2022	60%	40%	0%	0%

2022年度は肯定率100%という驚異的な数値でしたが、その後は90%前後で落ち着いています。児童の多くが学校生活の中で、行事や係・当番の活動を、まわりの人と協力して行っている様子が伺えます。

8. いじめなど、困ったことがあったら、相談できる先生、家族、友だちがいます



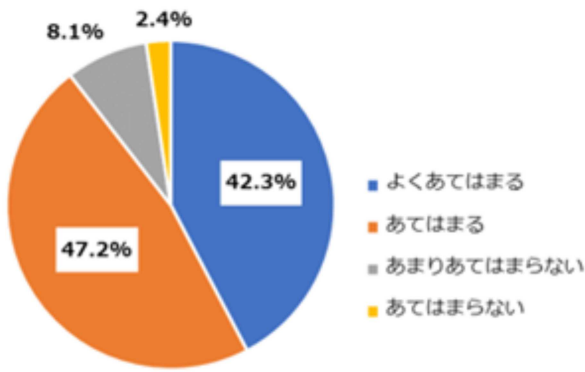
年度	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
2025	44.7%	39.8%	11.4%	4.1%
2024	56%	32%	10%	2%
2023	49%	29%	12%	9%
2022	60%	32%	6%	2%

2023年度に「あてはまらない」が9%まで上昇しましたが、2025年度は4.1%に改善しています。2023年度の数値上昇を受け、相談窓口の周知や教職員による見守りを強化してきた成果が、年を追うごとに表れ始めていると考えられます。

一方で、4年間の長期的な推移を見ると、「よくあてはまる」という回答は、2022年度の60%から2025年度は44.7%へと減少傾向にあります。これは、相談できる相手はあるものの、「どこまで深く相談してよいか」という心の距離感に迷いを抱える子どもが一定数存在することを示しています。

学校では、担任だけでなく、学年を越えた全教職員が「チーム」となり、子どもたちの小さなサインも見逃さない体制を整え、「誰に相談してもいいんだよ」というメッセージを送り続けてまいります。しかし、子どもたちにとっては、学校で心の内をすべて吐露するのは容易ではありません。保護者の皆様におかれましても、ご家庭が「ありのままの自分を受け止めてもらえる安心の場所」となるよう、お子さまの小さな変化に耳を傾けていただければ幸いです。

9. 先生たちは、話を聞いてくれたり、私たちのよいところをみとめてくれたりします



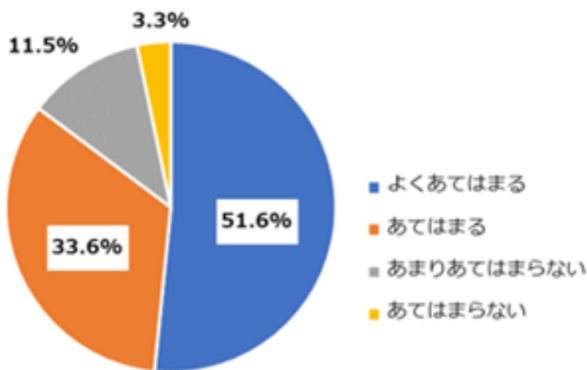
年度	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
2025	42.3%	47.2%	8.1%	2.4%
2024	62%	32%	5%	1%
2023	58%	32%	7%	3%
2022	64%	32%	3%	1%

2024年度まで60%前後で推移していた「よくあてはまる」が、2025年度には42.3%へと低下しました。この要因として、教職員の多忙化により児童一人ひとりと向き合う物理的な時間が不足していること、および学年が変わって担任等の交代に伴う指導スタイルの変化により、児童が「認められている」「受け入れられている」と実感する機会が相対的に減少している可能性が考えられます。

学校としては、多忙な中でも個々の児童に目を配るよう努めてまいりましたが、児童が求める「日常的な共感や承認」との間に、埋めがたい乖離が生じているのが現状です。

今後は、全教職員が改めて「傾聴」の姿勢を徹底するとともに、学習面のみならず、日々の何気ない努力や変化を肯定的に捉え声をかけていくことで、児童の自己肯定感向上に努めてまいります。

10. 登下校は、地域の人たちや先生が見守ってくれているので、安心です

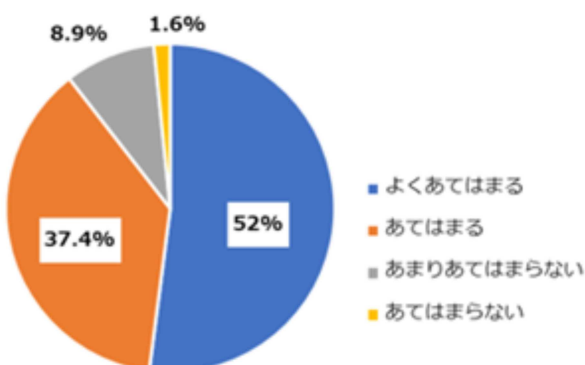


年度	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
2025	51.6%	33.6%	11.5%	3.3%
2024	54%	37%	7%	2%

「地域・先生の見守り」に対する安心感は、依然として8割を超えてはいるものの、昨年度の91%から85.2%へと減少傾向にあります。特に「あまりあてはまらない」と答えた児童が1割を超えた点は、重く受け止める必要があります。

これは今年度のPTA旗振り活動の縮小に伴い、登校時、子どもたちが通学路で大人の目に触れる機会が減ったことが一因と推察されます。今後は、活動の効率化を図りつつも、いかに子どもたちの安心を維持していくかが検討課題となります。

11. 地震や火事の時の、避難の仕方や自分の身を守る方法をわかっています



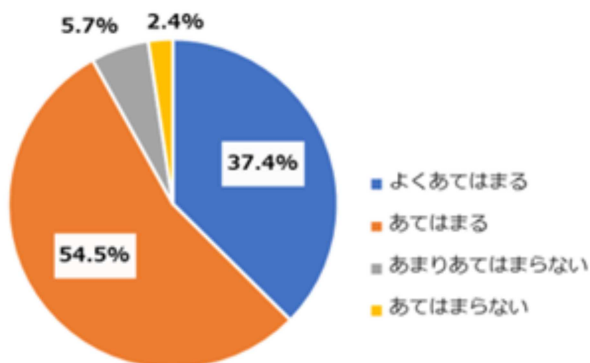
年度	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
2025	52%	37.4%	8.9%	1.6%
2024	54%	40%	3%	3%

「避難の仕方や身の守り方」についての肯定率は90%前後と高い水準を維持していますが、一方で「あまりあてはまらない」という回答が3.0%から8.9%へと増加しています。

約9割の児童が「わかっている」と自信を持って回答していることは、日頃の防災教育を自分事として捉えている成果といえます。しかし、11月に実施した「予告なし避難訓練」では、一部に緊張感の欠如(慣れ)が見受けられる場面もありました。

この数値の変動は、形式的な理解は進んでいるものの、不測の事態における実践的な判断に不安を感じている児童が増えている可能性を示しています。学校では今後、訓練内容をさらに工夫し、危機意識の形骸化を防ぐ取り組みを強化してまいります。ご家庭におかれましても、改めて防災時の行動について話し合う機会を持っていただければ幸いです。

12. 授業や行事の時にサポートしてくれる大人の人がいってくれるので安心です



年度	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
2025	37.4%	54.5%	5.7%	2.4%
2024	54%	38%	6%	2%

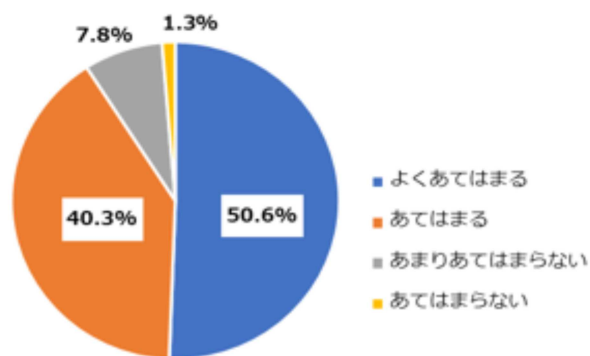
肯定的な回答は91.9%と、極めて高い水準を維持しています。これは、外部講師やボランティアの方々の継続的な支援が、子どもたちにとって欠かせない安心の土台となっている証です。

外部講師やボランティアの方々の存在が当たり前のように身近になったことは、本校の推進してきた地域連携の大きな成果といえます。

今後はこの良好な関係をさらに一歩進め、学習支援という側面だけでなく、外部講師やボランティアの方々と子どもたちの距離がより一層縮まるよう、学校側でも交流の場や声かけの工夫を検討してまいります。

◆保護者の回答より

1. 子どもは、楽しく学校へ行っています

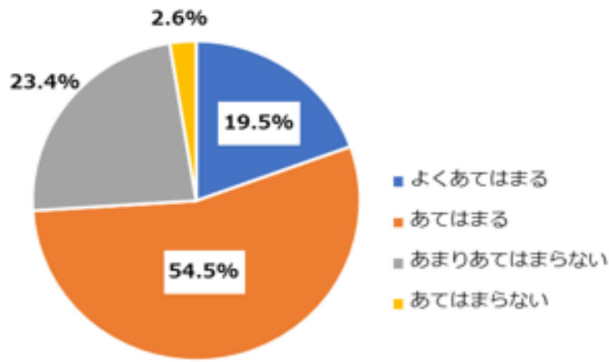


年度	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
2025	50.6%	40.3%	7.8%	1.3%
2024	46%	47%	6%	1%
2023	47%	41%	7%	5%
2022	61%	25%	9%	5%

2025年度の肯定回答は90.9%と高水準です。2022年度の「よくあてはまる」61%からは低下していますが、今年度は50.6%へと上昇しており、回復傾向が見られます。

全体的な満足度は非常に高く、さらに強い肯定感を持つ保護者が再び増え始めていることに嬉しく思います。

2. 子どもは、地域の人や関わりのある人にあいさつをしています

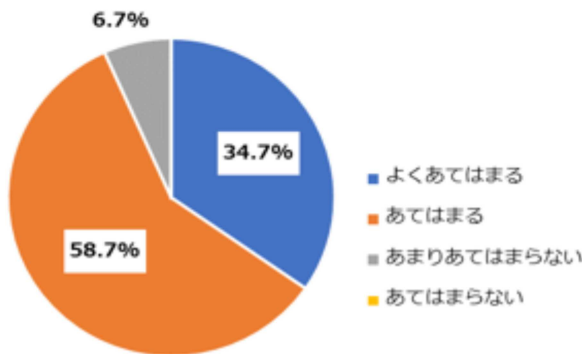


年度	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
2025	19.5%	54.5%	23.4%	2.6%
2024	41%	47%	10%	2%
2023	26%	54%	20%	0%
2022	46%	40%	12%	2%

2024年度の「よくあてはまる」41%に対し、2025年度は19.5%へと大幅に減少しました。肯定回答全体で見ても、昨年度の88%から今年度は74%へと14ポイント低下しており、地域でのあいさつに消極的な傾向が強まっています。

学校としては、子どもたちにとって「関わりのある人」への挨拶を改めて指導していきますので、保護者の皆様には地域で見本となる姿を見せ、防犯と両立した挨拶を促していきましょう。

3. 子どもは、安全に気をつけて登下校しています

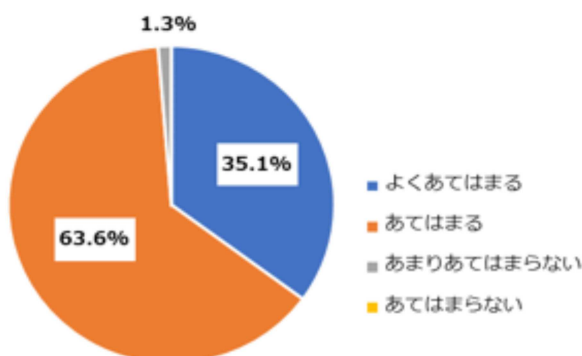


年度	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
2025	34.7%	58.7%	6.7%	0%
2024	41%	53%	6%	0%
2023	28%	68%	4%	0%
2022	53%	40%	5%	2%

肯定回答は93.4%と概ね良好な水準ですが、内訳を見ると「よくあてはまる」の割合が昨年度より減少傾向にあります。これは、安全への自信が少しずつ揺らいでいる現状の表れかもしれません。事実、近隣住民の方々からは、道路の広がり方や飛び出しなど、登下校の様子を心配する声もしばしば寄せられています。

子どもたちの安全を守るためには、学校の指導だけでなく、ご家庭での細やかな注意喚起が欠かせません。お子さまと一緒に実際の通学路を歩き、危険箇所を共有していただくことで、子どもたちの「自分を守る力」をより一層高めていきたいと考えております。ご協力をお願いいたします。

4. 子どもは、ルールやマナーを守って行動しています



年度	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
2025	35.1%	63.6%	1.3%	0%
2024	34%	57%	9%	0%
2023	24%	70%	7%	0%
2022	51%	47%	2%	0%

肯定回答は98.7%と極めて高く、学校と家庭で「何が正しいルールか」という共通理解がしっかり図られている成果といえます。

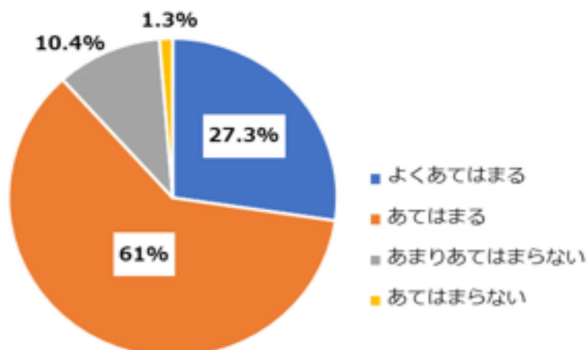
一方で、ルールを「知識として知っている」とこと、それを公共の場で「誰に言われなくても実行す

る」ことの間には、まだ大きな隔たりがあるのが現状です。

今後は、教職員の見守りがある学校生活で身につけたマナーを、一歩外に出た時にも同じように発揮できるよう導いていく必要があります。

登下校中や放課後など、大人の目が届きにくい場面でも「自分で自分を律して」行動できる、本当の意味での実践力を学校・家庭で協力して育てていきましょう。

5. 子どもは、学校の学習を理解しています



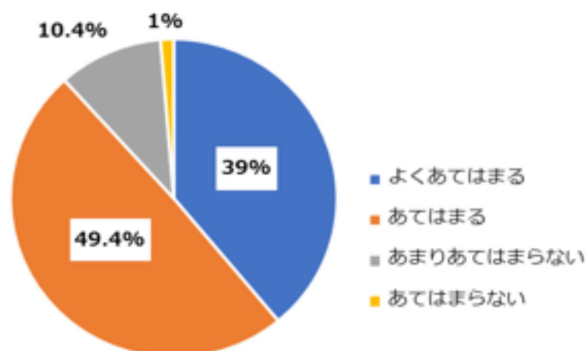
年度	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
2025	27.3%	61%	10.4%	1.3%
2024	32%	52%	14%	2%
2023	25%	67%	7%	1%
2022	51%	38%	9%	2%

肯定回答は88.3%となりましたが、否定的な回答が11.7%と未だに1割を超えている現状を重く受け止めています。

学習内容が高度化するなかで、一人ひとりの進度を完全に保障することは容易ではありませんが、学校としては、子どもたちが抱える学習への不安や戸惑いを見逃さないよう、相談しやすい体制づくりに努めてまいります。

学習の定着には、ご家庭での日常的な振り返りが大きな支えとなります。保護者の皆様におかれましては、宿題やノートを通じてお子さまの様子に気を配っていただき、もし不安そうな様子が見受けられた際には、いつでも学校へご相談ください。

6. おうちでは、子どもと学校の話と一緒にしています



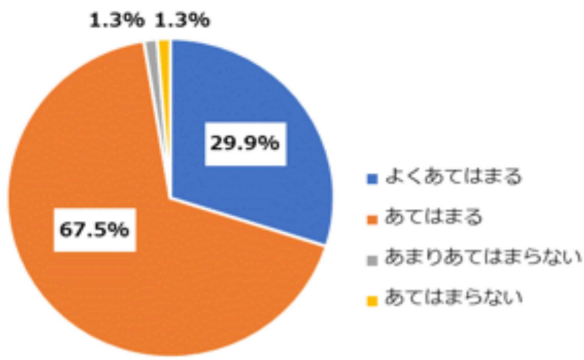
年度	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
2025	39%	49.4%	10.4%	1.3%
2024	44%	51%	4%	1%
2023	36%	61%	4%	0%
2022	60%	38%	2%	0%

「おうちで学校の話をしている」という回答は88.4%でした。多くの方が意識してくださっていますが、ここ数年の推移をみると、少しずつ会話の機会が減っているのが気になるところです。

学校での出来事は、お子さまの成長や心の変化を知る大切な手がかりです。学校からは、お便りやWebサイト等を通じて、会話の種となる情報を積極的にお伝えしていきます。

お忙しい毎日ではあると思いますが、ぜひご家庭でも「そういえば、学校で〇〇があったみたいだね」と、お子さまの声に耳を傾けるひと時を大切にいただければ幸いです。

7. あなたは、子どもの友達関係を知っています

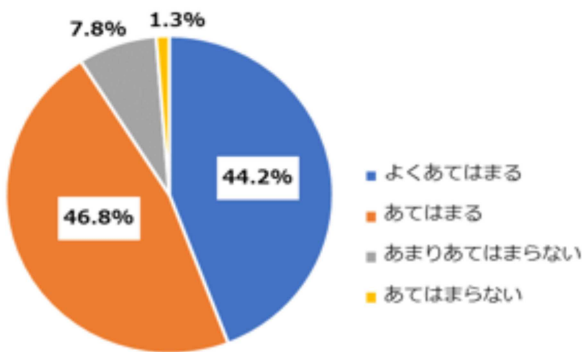


年度	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
2025	29.9%	67.5%	1.3%	1.3%
2024	37%	51%	12%	0%
2023	26%	61%	13%	0%
2022	46%	46%	5%	3%

97.4%ものご家庭が「知っている」と回答されました。昨年度からの大幅な向上は、皆様が忙しい日々の中でもお子さまの人間関係を大切に考え、寄り添ってくださっている成果だと感じています。

学校は、子どもたちが多様な人間関係を学ぶ場です。時にはぶつかり合うこともありますが、その際に「おうちの人が自分の友達のことを知っている」という安心感は、子どもたちの大きな支えとなります。これからも学校と家庭で情報を共有しながら、子どもたちが安心して過ごせる豊かな人間関係を共に育んでいきましょう。

8. あなたは、学校からの配布物やすぐーるで配信されたお知らせに目を通しています

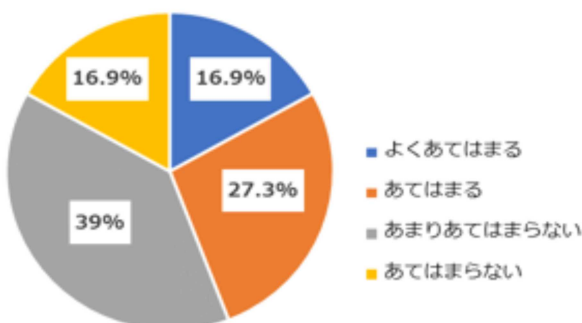


年度	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
2025	44.2%	46.8%	7.8%	1.3%
2024	50%	45%	5%	0%
2023	53%	43%	4%	0%
2022	60%	40%	0%	0%

肯定回答は91.0%と、依然として高い水準を維持しています。しかし、以前の調査と比較するとわずかに減少しており、情報のデジタル化が進む中で「情報の見落とし」や「確認の負担」が生じている可能性も考えられます。

「すぐーる」による配信の利便性を活かしつつ、今後は配信件数の精査や、一目で内容が伝わる件名の工夫など、より確実にお手元に届く発信方法を継続して検討してまいります。保護者の皆様におかれましても、重要なお知らせの見落としがないよう、引き続きご確認をお願いいたします。

9. あなたは、緊急時などに学校のホームページを見るようにしています



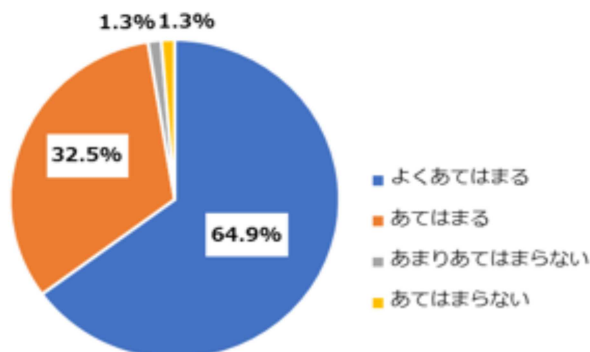
年度	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
2025	16.9%	27.3%	39%	16.9%
2024	1%	9%	60%	30%

緊急時のホームページ閲覧に関する肯定回答は44.2%となり、昨年度から大きく改善しました。しかしながら、意識の向上が伺える一方で、まだ半数以上の方には活用されていないという現状

も浮き彫りとなりました。

緊急時にはアクセスが集中し、「すぐーる」の通知が遅延する可能性も想定されます。その際、ホームページはより詳細な情報を確認できる重要な補完手段となります。いざという時、保護者の皆様が迷わず情報を得られるよう、改めてホームページの役割を周知するとともに、より見やすく、更新頻度の高いサイト運営に努めてまいります。

10. あなたは、学習参観や懇談会に参加するようにしています

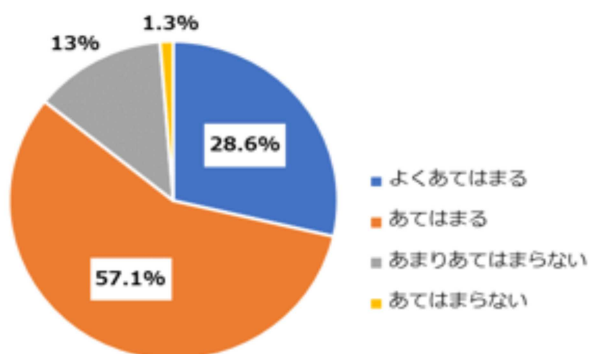


年度	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
2025	64.9%	32.5%	1.3%	1.3%
2024	58%	36%	6%	0%
2023	63%	30%	7%	0%
2022	75%	25%	0%	0%

肯定的な回答は97.4%に達し、過去4年間で最高数値を記録しました。保護者の皆様が学校教育に高い関心を寄せ、積極的な関わりを持とうと努めてくださっていることが顕著に示された結果といえます。

学校としては、この高い出席率を「信頼の証」と受け止め、今後もお子さまの学びの様子がより明確に伝わる授業公開や、保護者同士・教職員との情報共有が深まる懇談機会の充実に努めてまいります。

11. あなたは、学校の行事や活動にできるだけ協力したいと思っています

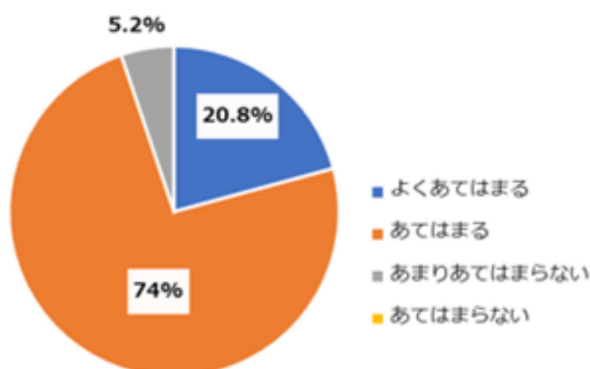


年度	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
2025	28.6%	57.1%	13%	1.3%
2024	29%	55%	15%	1%

肯定回答が8割を超えたことは、私たち教職員にとって大きな励みとなりました。お子さまの学びの環境を、保護者の皆様と一緒に作っていきたいという想いを再確認できた結果です。

学校としては、一回きりの参加や短時間のサポート等、誰もが無理なく参加できる形を模索していきますので、これからも、できる時に、できる範囲でのご支援を、どうぞよろしくお願いいたします。

12. 学校は、防災や防犯について、子どもに指導しています



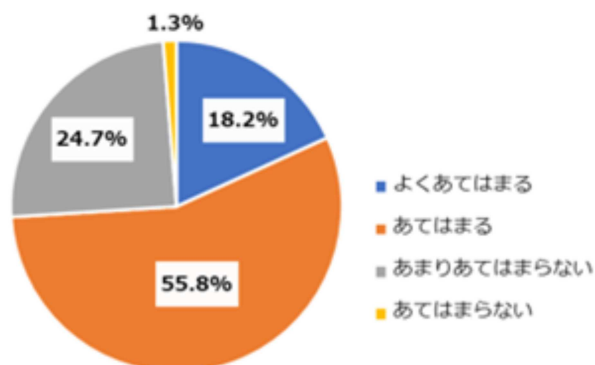
年度	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
2025	20.8%	74%	5.2%	0%
2024	24%	67%	8%	1%
2023	26%	68%	5%	0%
2022	40%	51%	9%	0%

学校の指導に対し、94.8%という極めて高い肯定回答をいただきました。学校の安全管理への取り組みを信頼していただけていることを心強く思うとともに、改めて責任の重さを痛感しております。

今後も、いつ起こるか分からない災害や犯罪に対し、子どもたちが自ら判断し動けるよう、より実践的な訓練を継続してまいります。

安全意識の定着には、学校で学んだことを日常の景色に照らし合わせて確認することが不可欠です。ご家庭におかれましても、登下校路の危険箇所や災害時の約束事について定期的に話題にさせていただくなど、知識を「自分事」にするための後押しをお願いいたします。

13. あなたは、子どもと災害時どのように行動したらよいか話し合っています

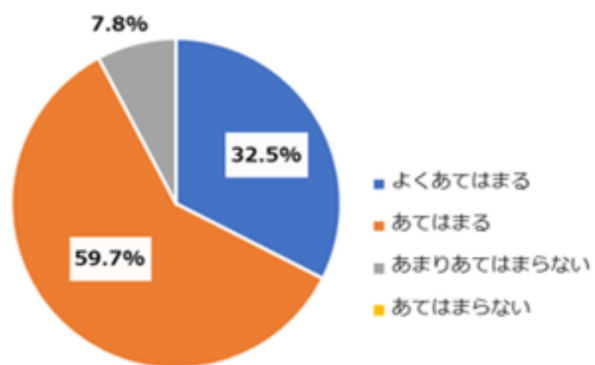


年度	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
2025	18.2%	55.8%	24.7%	1.3%
2024	24%	60%	16%	0%

肯定回答が昨年度より10ポイント低い74.0%となりました。学校での防災教育には高い評価をいただいておりますが、いざという時に本当の意味で子どもを守るのは、ご家庭で約束した「家族のルール」です。

「学校で学んでいるから大丈夫」で終わらせず、ぜひその学びをご家庭での会話に繋げてください。「学校に迎えに行くからね」「もし離れ離れになったら、〇〇に集合しよう」といった具体的な約束は、子どもたちの大きな安心感となります。お子さまの命を守る「最後の砦」として、今一度、避難先や連絡方法について話し合う機会を持っていただければ幸いです。

14. 学校は、子どもの生活や学習について適切に評価しています

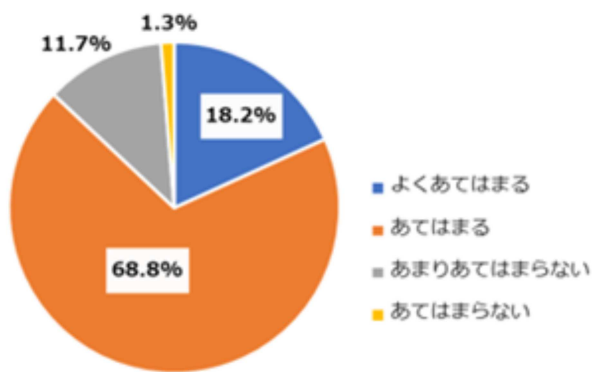


年度	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
2025	32.5%	59.7%	7.8%	0%
2024	23%	67%	9%	1%
2023	32%	59%	9%	0%
2022	37%	58%	5%	0%

肯定回答は92.2%に達し、特に「よくあてはまる」が昨年度の23.0%から32.5%へと大幅に上昇しました。評価の観点の明確化や、日々のフィードバックの積み重ねにより、学校の評価に対する客観性や納得感が着実に向上していると分析しています。

学校としては、今後も数値に表れにくい意欲や態度を含めた多角的な評価を心がけてまいります。保護者の皆様におかれましては、通知表の結果のみならず、そこに至るまでの努力のプロセスや成長の跡を積極的に認め、お子さまの次なる意欲へと繋げていただければ幸いです。

15. 学校は、子どものことについての相談に適切に応じています。(いじめなども含む)

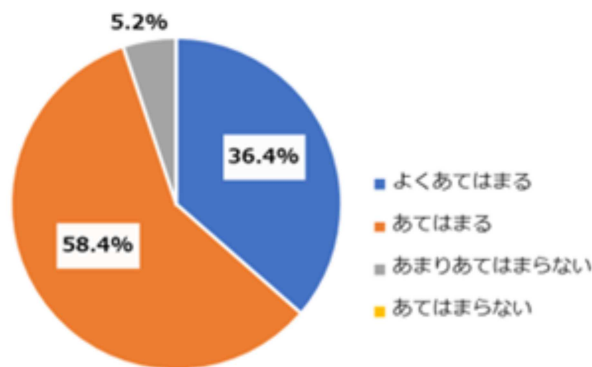


年度	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
2025	18.2%	68.8%	11.7%	1.3%
2024	24%	62%	12%	2%
2023	21%	62%	16%	1%
2022	37%	60%	3%	0%

ご家庭から87.0%の肯定的な回答をいただきました。いじめや生活上の不安など、デリケートな問題に接する際、学校を相談先として選んでいただけることを重く受け止めております。

「相談してよかった」と思っていただけのように、これからも全教職員がチームとなり、お子さまや保護者の皆様の思いに真摯に耳を傾けてまいります。もし、お子さまの様子で少しでも気になることがございましたら、まずは気軽にお声がけください。

16. 学校は、保護者や地域に授業や行事を公開しています

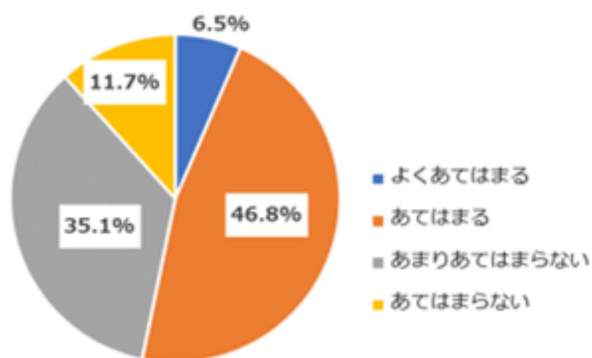


年度	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
2025	36.4%	58.4%	5.2%	0%
2024	32%	67%	0%	1%

94.8%という非常に高い肯定回答をいただきました。お忙しい中、多くの方に足を運んでいただき、子どもたちの活動を温かく見守ってくださっていることに深く感謝申し上げます。

学校に足を運んでいただく時間は、お子さまの成長を共有できる大切なひと時です。これからも、普段の授業の様子や行事での頑張りにより伝わるような場づくりに努めてまいります。

17. 学校の施設や設備は、整備されています



年度	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
2025	6.5%	46.8%	35.1%	11.7%
2024	6%	25%	44%	25%
2023	4%	42%	37%	17%
2022	18%	40%	26%	16%

肯定回答は53.3%となり、昨年度から大幅な改善が見られました。これは、新仮設校舎の完成が、保護者の皆様に教育環境が整ったこととして肯定的に受け止められた結果と考えられます。

しかし、他の項目に比べると依然として満足度は低く、改善の余地が多く残されているのが現状です。学校の施設は、子どもたちが一日の大半を過ごす大切な場所です。校舎の美化や設備のメンテナンスなど、学校でできる工夫を積み重ねるとともに、行政等とも連携を図りながら、より良い学習環境の実現に向けて一歩ずつ歩みを進めてまいります。

<総評>

2025年度の児童および保護者へのアンケート結果を比較すると、「挨拶の実態」「規律意識の差」「学校評価への温度差」という3つの大きな課題が見えてきます。

1) 挨拶習慣の低下と家庭・地域への広がり

保護者(41%→19.5%)と児童(38%→22.8%)双方で「積極的に挨拶ができています」という肯定的な回答が半減しており、学校内だけでなく家庭や地域も含めた生活全体で、挨拶を交わす習慣が希薄化している実態が浮き彫りになりました。

2) 規律意識における保護者の信頼と児童自身の振り返り

子どものルール遵守に対し、保護者の98.7%が肯定的な信頼を寄せている一方で、児童自身の自己評価は88.5%に留まっており、学校生活において「ルールを守りきれていない自分」を自覚し、葛藤している児童が一定数存在することが示唆されます。

3) 学校評価への満足度と児童が感じる受容感の乖離

保護者の9割以上が学校の評価体制を肯定していますが、児童が「先生に認められている」と感じる割合は62%から42.3%へ低下しており、学習面などの「目に見える評価」への満足度に対し、日常的な「心理的つながりや承認」に物足りなさを感じている児童が増えています。

今回の結果で最も注視すべきは、保護者設問④「子どもは、ルールやマナーを守って行動しています。」において、その肯定的な評価(98.7%)と学校での実態との乖離です。

本来、学校はルールを学び自分を律する場であり、家庭はそこでの緊張を解きほぐす場であることが理想です。しかし現状では、「家庭で良い子を演じすぎるあまり、その緊張やストレスを学校でのルール違反や身勝手な行動として発散してしまっている」という、逆転現象が起きている子どもたちも散見されます。

「うちの子は家では問題ない」という安心の陰で、お子様が外で過度な「心の揺れ」を見せていないか、今一度注視していただければ幸いです。

学校もまた、子どもたちが本音を出し、先生を信頼できる「受容感」の向上に全力で取り組んでまいります。等身大のお子様の姿を学校と家庭で共有し、ともに支えていける関係を目指してまいります。